

スリナム月間情勢報告 (2019年1月)

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- ボータッセ大統領は、政権運営に強い意欲を示し、8年の実績を強調し、3期目を目指すことを示唆した。
- 経済面では、ボータッセ大統領はインフレの低下を例に、経済成長を強調したが、国内では米ドルの流通が減少している。
- 外交面では、マドゥーロ・ベネズエラ大統領就任式に副大統領を派遣し、内政不干渉の立場を繰り返し強調した。また、中国の各種支援も報じられた。

2. 内政

- 1日、ボータッセ大統領は国民向け新年の演説の中で、政府は引き続き保健医療等の社会保障の充実にコミットし、国民の生活向上を目指す述べた。
- 4日付現地紙は、ウィリアムス米大使はサントキ野党党首の訪問を受けた、同党首による関係国との関係強化の一環とみられると報道。
- 8日付現地紙は、首都パラマリボの港で、輸出予定だったコンテナに隠された2,000キロ以上のコカイン（末端価格8千万ユーロ相当）が警察に押収された、史上最大量のコカイン押収となったと報道。
- 9日付現地紙は、ボータッセ大統領は過去8年の実績に自信を持っており、国民の信頼が得られれば3期目を目指す、同大統領自身を被告とする反対派虐殺裁判には心配していないと述べたと報道。
- 23日付現地紙は、連立政権はボータッセ大統領の政策実施を支持する決議案を賛成多数で可決したと報道。

3. 経済

- 5日付現地紙は、オランダ司法省がスリナム中央銀行からのユーロ注文を差し押さえたことから、国内での米ドル流通が減少しており、スリナムドル安が起きていると報道。
- 14～19日、イスラム開発銀行、アラブ経済開発のためのクウェート基金、OPEC国際開発基金及びカリブ開発銀行の代表がエネルギー関連プロジェクト支援の協議のためスリナムを訪問し、ウーフダド財務大臣を表敬訪問した。
(18日付現地報道)
- 22日付現地紙は、ボータッセ大統領は国会でスリナムの18年11月時点

での過去1年のインフレ率は5.5%で、1年前の9.2%より低下し、経済は成長していると述べたと報道。

4. 外交

- 7日付現地紙は、駐スリナム中国大使は、サッカー等のスポーツ分野での協力を強化していくと述べたと報道。
- 8日付現地紙は、駐スリナム中国大使がボータッセ大統領夫人の社会奉仕活動支援のために自転車22台、コンピューター15台を寄贈したと報道。
- 9日付現地紙は、マドゥーロ・ベネズエラ大統領の就任式にアディーン副大統領派遣に関する批判に対して、ボータッセ大統領は、スリナムは他国の内政には干渉しないとの国際原則を遵守すると反論したと報道。
- 14日付現地紙は、アルゼンチン是在スリナム大使館を閉鎖し、ガイアナの同国大使館が兼轄することとなったと報道。
- 16日、ポラック＝ビゲリ外務大臣は、ビデチッチEU大使及びマリーCARIFORUM総局長と会談し、EUのスリナム支援の他、EUスリナム関係等につき協議した。(28日現地紙報道)
- 27日、アディーン副大統領はインド独立70周年記念レセプションに出席し、両国の関係は相互利益、相互尊重に基づく相互依存関係と強調した。(28日付報道)

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。